

さいたま市文化財時報

かや
櫃りぼーと

第61号

平成27年度新指定文化財

さいたま市教育委員会は、平成28年3月30日付けで「しかてぶくろ まつり鹿手袋の祭ばやし」を無形民俗文化財として指定し、「しかてぶくろはやしれん鹿手袋囃子連」を保存団体に認定しました。

これにより、市内に所在する市指定文化財は445件、国・県指定を含めた総件数は530件となりました。また、この他に市内には6件の国登録有形文化財があります。(平成28年4月1日現在)



▲「しかてぶくろ まつり鹿手袋の祭ばやし」の山車(左)と踊り(右)

●さいたま市の新指定文化財(平成27年度)

種別	名称	所在地	保存団体
無形民俗文化財	鹿手袋の祭ばやし	さいたま市南区鹿手袋	鹿手袋囃子連

新指定 無形民俗文化財 「鹿手袋の祭ばやし」

この囃子は、南区鹿手袋に伝わるもので、主に八幡神社の祭礼で演奏されるものです。

起源は明治初期に大久保領家(桜区)から伝わった江戸神田囃子系の囃子といわれています。また、町内に文政年間の屋台の車輪が残っており、江戸時代後期から始まったとも推定されます。

囃子は八幡神社境内で披露されます。2月の初午は境内の稲荷社で、7月14日に近い日曜日は近くの須賀神社で囃されます。また、7月は神輿の渡御とともに山車に乗ったお囃子が地区内を巡行します。1尺2寸の大太鼓1(オカ)、小太鼓2(ツケ)、7穴の笛1、鉦^{かね}1の五人囃子で構成され、ヤタイバヤシ(屋台囃子)、ショウデン(昇殿)、カマクラ(鎌倉)、シチョウメ(四丁目)、カンダマル(神田丸)、オドリバヤシ(踊り囃子)の6曲が演奏されます。また、ヤクモノと呼ばれる面をつけての踊りには、獅子舞、ヒョットコ、オカメがあります。

保存会は、5月の連休明けから7月の公開まで練習を行い、本番にそなえます。子どもは未就学児から高校生の参加があり、保存会が熱心に後継者育成の活動を行っています。また、活動範囲も広く、桜区田島の氷川神社や浦和まつりなどへも参加し、囃子の公開に努めています。



▲浦和まつりに参加(平成27年7月20日)



▲神輿の渡御のようす

TOPICS

●さいたま市新指定文化財の認定書交付式を行いました

平成28年3月30日付けで指定した「鹿手袋の祭ばやし」について、認定書交付式を4月26日(火)にさいたま市役所9階応接室で行いました。

当日は、新たに市指定無形民俗文化財の保存団体となる「鹿手袋囃子連」に認定書を交付しました。



▲中央から左へ 鹿手袋囃子連の村田会長、寺尾氏、田口氏

●国指定史跡「見沼通船堀」再整備事業を行っています

史跡「見沼通船堀」については、平成6年度から平成9年度までに行った史跡整備から約20年が経過しました。史跡全体の劣化や史跡を取り巻く環境変化に対応するため、改めて史跡を再整備する必要が生じました。

平成27年度から見沼通船堀再整備事業を開始し、当該年度中に通船堀東縁休憩施設の改修工事を行いました。平成28年度は、見沼通船堀東縁の堀内等の本格工事を開始し、西縁を含めた史跡全体の整備は平成32年度に完了する予定です。再整備事業の進捗状況については、市ホームページなどでお知らせします。



▲平成8年に整備された関のようす

●国指定史跡「真福寺貝塚」の保存活用計画を策定しました

岩槻区にある「真福寺貝塚」は、わが国を代表する縄文時代遺跡の一つとして、国史跡に指定されています。この重要な史跡を将来にわたり守り伝えると共に、学習や憩いなど様々な形で史跡を活用することを目指して、「史跡真福寺貝塚保存活用計画」を策定しました。その主な内容は、次のとおりです。



▲鹿の角が出土したようす

1 史跡の保全に必要な方策を示しました。

現在史跡に指定されている部分に加え、指定範囲の外側に残る重要な部分を保存する方法や、現状変更などが行われる場合の取扱方針など

2 早期に市民に公開する方針を示しました。

段階的に整備工事を行う方針や、目標とする年次など

策定した「保存活用計画」は、各区情報公開コーナーや市立図書館、市ホームページなどでご覧いただけます。

今後、整備の実施に向けた発掘調査や具体的な方針の検討などを進めていきます。発掘調査の様子や進捗状況については、市ホームページなどでお知らせします。

「真福寺貝塚」の重要性

- ①縄文時代後期から晩期のムラや貝塚、泥炭層遺跡と呼ばれる水場の遺跡などがセットで保存されています。
- ②考古学が発展する上で重要な研究材料を幾度も提供するなど、学問発展上の重要な意義があります。
- ③国指定重要文化財の土偶(みみずく土偶)が出土した遺跡です。
- ④国指定史跡として、重要な縄文時代後・晩期の遺跡が数多くあるさいたま市を象徴する遺跡です。



重要文化財 土偶(みみずく土偶)
画像提供：東京国立博物館

さいたま市内指定文化財等公開カレンダー 平成28年7月から9月まで

市内各地で開催される行事で指定文化財が公開されるほか、「発掘調査成果発表会」や「最新出土品展」を文化財保護課主催で予定していますので、ぜひお出かけください。見学や公開に関する詳しい内容は、市ホームページをご覧ください。文化財保護課(048-829-1723)までお問い合わせください。天候によっては、中止や延期の場合があります。

	名 称	日 時 ・ 場 所 ・ 内 容
1	宿の祭ばやし	7月9日(土) 14時から 大久保神社(桜区宿69) 大久保神社で公開される祭囃子で、宿地区を神輿とともに巡行します。祭りの終盤には、塚本、五関のお囃子と競演があります。
2	神田の祭りばやし	7月9日(土) 14時30分から 八雲神社(桜区神田550) 江戸神田囃子の系統の五人囃子で、八雲神社から神輿とともに、月読社をはじめ神田地区内を巡行します。
3	田島の獅子舞	7月9日(土) 16時から 田島氷川社(桜区田島4-12-1) 3頭の獅子が笛の音にあわせ、太鼓を打ちながら優美に舞います。
4	秋葉ささら獅子舞	7月16日(土) 秋葉神社(西区中釘818)・永昌寺(西区中釘1699) 10時に中釘自治会館を出発し、11時50分頃秋葉神社境内で獅子舞を披露します。また、16時より永昌寺三尺坊でも披露します。また、8月20日(土)に開催される「指扇まつり」(滝沼川第2遊水地：西区指扇4406)で20時から公開します。
5	鹿手袋の祭ばやし	7月17日(日) 10時から 鹿手袋会館(南区鹿手袋6-4-11) 神輿とともに山車に乗ったお囃子が須賀神社(南区鹿手袋6-6-20)や地区内を巡行します。
6	駒形の祭ばやし	7月17日(日) 12時から 須賀神社(緑区中尾1430-3) 須賀神社で公開される祭囃子で、駒形地区を神輿とともに巡行します。宵山(前日の夜)には、お囃子に合わせオカメ・ヒョットコや獅子舞も披露します。
7	砂の万灯	7月17日(日) 16時から 八雲神社(見沼区東大宮1-13-9) 7組の万灯組が、悪疫退散等を祈願して万灯を境内に並べます。夕方から万灯は点燈され、違う印象が楽しめます。
8	浦和まつり	7月24日(日) 14時40分から 中山道浦和宿(浦和区仲町他) 浦和木遣保存会が、旧中山道を八雲神社から調神社まで、木遣歌を歌いながら歩きます。また、駒形の祭ばやし、宿の祭ばやし、神田の祭りばやし、鹿手袋の祭ばやしも参加します。さらに、「仲町獅子王祭獅子頭」(市指定有形民俗文化財)を仲町御酒所にて公開します。 ※お問い合わせ (社)さいたま観光国際協会(☎048-647-8338)
9	氷川女體神社の名越祓え	7月31日(日) 15時から 氷川女體神社(緑区宮本2-17-1) 悪疫退散、健康を祈願する夏越しの行事で、人型に切った紙を川へ流し、穢れを取り除いた後、マコモで作った大きな輪を歩いてくぐります。
10	指扇の餅搗き踊り	8月20日(土) 17時から 滝沼川第2遊水地(西区指扇4406) かつて指扇地区内の家の庭で行われた餅搗き踊りです。曲芸のような動作をしながら餅を搗く「曲搗き」等を披露します。 ※「指扇まつり」内で公開します。
11	深作ささら獅子舞	8月20日(土) 17時から 深作氷川神社(見沼区深作2-15-4) 三頭の獅子と天狗による舞を行い五穀豊穰等を祈願します。
12	最新出土品展	9月6日(火)～9月19日(月) 9時～16時30分 さいたま市立博物館 特別展示室 平成27年度を中心に、市内各所で発掘した出土品や、調査の様子を展示します。※9月12日(月)は休館です。(9月から12月にかけて、市内の博物館・区役所等で巡回展示します。)
13	さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会	9月10日(土) 10時～16時10分 大宮図書館 視聴覚ホール 市内の遺跡の発掘調査成果を各調査担当者が発表します。また、史跡保存と活用をテーマとした講演会をあわせて行います。
14	岩槻の古式土俵入り(笹久保地区)	9月18日(日) 15時から 篠岡八幡大神社(岩槻区笹久保810) 幼稚園から小学生までの子どもたちが、化粧回しを身につけ、古くから伝わる土俵入りの型を演じます。子どもの健康、安全を祈願して行います。